

連載

日本の観光洞-37

水島 明夫 (MIZUSHIMA Akio)

愛媛県 Ehime-ken

四国の2回目は、愛媛県です。で、冒頭からスママセン。Caving Journal Vol. 2 の日本の観光洞連載第1回のリストでは、愛媛県に観光洞が“49龍雲鍾乳洞”と“50穴神鍾乳洞”の2つとしていました。洞窟温泉として取り上げるつもりだった“龍雲鍾乳洞”はすでに使われておらず、49番は欠番に。ところが新しく、そうめん流しで売り出し中の“安森洞”が81番で登録になります。ン〜、1996年のリストはもう無理があるな〜。ナンバーの付け方も甘いし... 難しい。

さて愛媛県といったら、山内 浩、そして鹿島愛彦という日本のケイビング界を作った人たち、そしてあの愛媛大学学術探検部のお膝元、小生がこんな雑文を書いていいのか、悩むところです。鹿島先生の書かれた「すねぐろの愛媛点描」(2003)を参考に頑張ります。

1972年山内・鹿島は愛媛県を7つのブロックに分け101の洞窟を報告している。1987~1988年鹿島は愛媛の自然第29~30巻に愛媛県の洞窟を地質帯毎に紹介している。基本的には北東から南西へ帯状に並んでいる。

北部の松山や道後温泉は地質的には香川県と同じ流れになり、西南日本は内帯の領家帯。海食洞がいくつかあるようだが石灰洞はない。

次の三波川帯は変成岩帯なのだが、風穴がいくつかと、石灰質片岩にできた“川辻鍾乳洞”が八幡浜にある。透明な結晶質ストローを見たかったが水源のため入洞できなかった。

そして、いよいよ外帯は秩父層群、穴が最も多いのは高知県との県境の仁淀川流域、そうあの有名な四国



四国カルスト 景観

カルストだ。なお、秋吉台や平尾台のようなカルスト台地を想像してはいけない。レンズ状に石灰岩が分布し、天狗高原や五段城、そして大野ヶ原にかけて尾根沿いに石灰岩が分布するためカルスト地

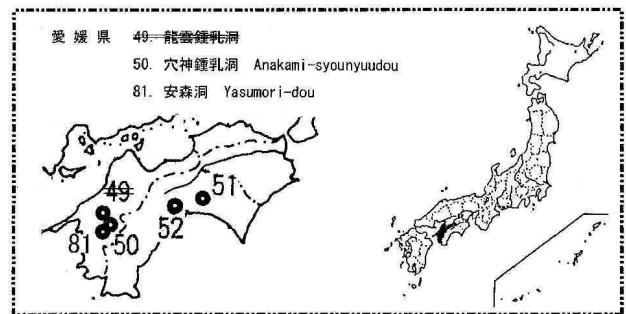


羅漢穴のポアパッセイジ

形ができているのだ。見事なポアパッセイジの“羅漢穴”、SRT初期の頃D(ダブル)RTで入った四国カルスト最深の“龍王洞”、他にも“日浦洞”など、日本のケイビングを語るときに必ず出てくる穴が並ぶ。その秩父帯の肱川沿いに“龍雲鍾乳洞”が観光洞であった。

秩父帯の南側の鳥ノ巣石灰岩に“穴神鍾乳洞”が観光洞だ。さらに南の高知は“龍河洞”の流れの三宝山帯の佛像構造線沿いにも穴がたくさん。“安森洞”をそうめん流しがメインで、一応観光洞とした。

さらに南の四万十帯には石灰岩がなく、宇和島の近くに海食洞があるようだ。そう言えば愛媛県西側の海岸線は、佐田岬を筆頭に実に不思議な景観だと思う。



49. 龍雲鍾乳洞 Ryuuunn-syounyuudou

横穴・全長 約 40m

<特色>

山の中の小藪温泉にあった穴。建物の中の扉を開けると、そこは自然洞を洞窟風呂にした空間らしい(温泉のおじさんの話)。照明もあり、それこそ裸、特別の装備なしに入れる面白い観光洞のはずでした。現在は倉庫にしているとかで、覗くことすら許されなかった。5年の間を開けて2回も行ったんですけどね〜、粘ったんですけどね〜、心の底から残念。

<所在地>

愛媛県大洲市肱川町宇和川小藪温泉 Tel 0893-34-2007

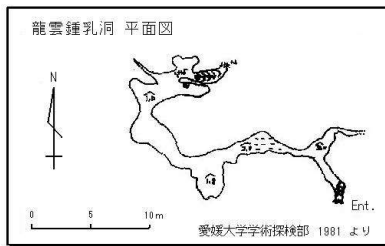
<交通>

バスで行けないこともないが、JR予讃線伊予大洲駅から宇和島バス天神行きで約40分、鹿野川大橋で降りた後は、ひたすら山道。この道で大丈夫?と不安になった頃に到着。ということで、行くなら車。松山自動車道大洲ICから国道197号を南下、鹿野川湖の手前、山

道を西側に約1.5km。道は狭くかなり急坂を上る。小藪温泉の看板が出ているので、見逃さないように。

<概要>

お風呂ということですから当然床はセメント、狭いところも削られ、それこそ日本唯一と言える穴だったはず。本当かな～？。測図で我慢しましょう。



奥にフローストーンがあるような・・・。それこそ温泉堆積物だったら、岩手は夏油温泉、大分は七里田温泉のように本当に貴重な所なんですけどね～。

<探検の歴史>

昭和の頃は風呂とは関係なく、入洞料も取る立派な観光洞だったよう。

<周辺の宿泊施設、見所>

小藪温泉、日帰り温泉さらには囲炉裏料理も可能な宿泊施設として営業している。

50. 穴神鍾乳洞 Anakami-syounyuudou

豎横複合洞・全長 283m、高低差 23m

<特色>

なんとあの有名な鳥ノ巣石灰岩にできた穴。中生代はジュラ紀の石灰岩で、日本の石灰岩としては一時代新しい石灰岩だ。今井谷層群と名付けられている。

元々は“穴神洞窟遺跡”として、何と1万年以上前の縄文時代から人類が利用していたよう。洞窟遺跡の下に新洞が見つかり、二次生成物の保存を含めて町が整備、管理洞として入洞できるようになった。

新発見というと閉鎖型の洞窟の繊細な美しさを期待するが、至って普通の洞窟、山内等はもっと大きな洞窟の残存洞かもと推測している。

<所在地>

愛媛県西予市城川町川津南3723 Tel 0894-83-1008

<交通>

JR予讃線卯之町駅から宇和島バスで野村営業所、さらに日吉方面のバスで宝泉坊温泉下車。駅からは接続が良くても小1時間かかる。下車後、北東に徒歩約5km。途中に大門峠があったりして、しんどいです。

車だと、大洲ICから国道197号を小藪温泉、鹿野川湖を過ぎてもひたすら南下。湖を過ぎて10km位か、宝泉坊温泉からは徒歩に同じ。洞口前には駐車場



小屋の左が入口、上の看板の所が出口

と、休憩できる小屋、トイレがあり整備されている。

<管理者>

愛媛県西予市城川町高野子高川公民館Tel0894-83-1151

入洞方法が混乱しているよう、公民館に連絡より、近くの商店(所在地の連絡先)に入洞料を払い、鍵を開け、照明をつけてもらう。夏場は小屋に常駐していることもあるとか。

<概要>

まるで、家の玄関のような入口の扉を開けて入る。溶食形態があちこちに、ノッチも多数。そのノッチに流礫棚もある。二次生成物も新発見されただけあり、つらら石、石筍、石柱、カーテン、フローストーンなど保存状態が良い。なお、上層の方が二次生成物の発達が良いが、何せ縄文時代から人が出入りしているだけに、ほとんどが無くなってしまっているのが残念。豊富ではないが、所々にあるから印象的に見える。



新洞の入口、右下の溶食痕に注目

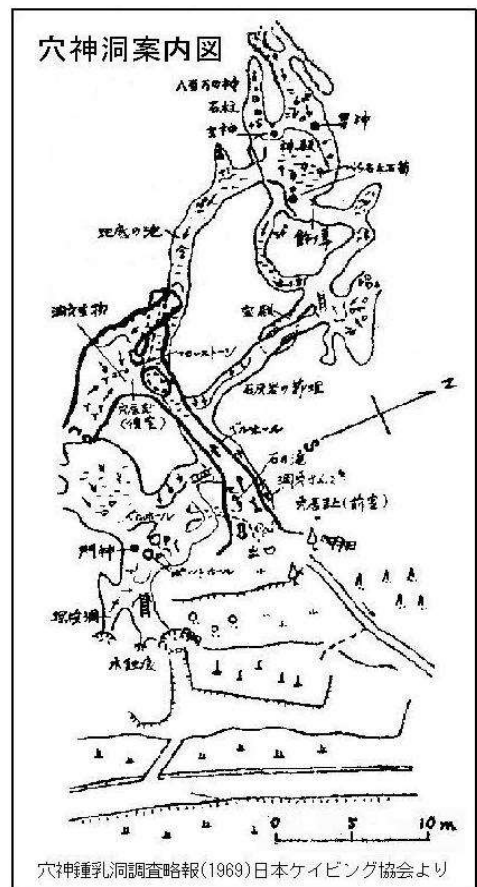


穴神洞窟遺跡の出口

洞幅、天井高、そして高低差も変化があり、短い階段で次第に

上がっていく。そして上層の“穴神洞窟遺跡”から外に出る。その高低差約7m。洞口としては上の出口の方が、穴らしい雰囲気がある。

観光洞としては、規模は大きくないが、地元の方々が誇りを持って管理されていることがひしひしと分かる。



穴神鍾乳洞調査略報(1969)日本ケイビング協会より

愛媛県には他にもスゴイ穴がいっぱいあるが、観光洞としてはこの穴が唯一。(似た名前前で次に紹介する 穴森洞は、“そうめん流し”の観光洞です)

<探検の歴史>

現在、出口として利用されている“穴神洞窟遺跡”はケイビングが始まる以前から、人が訪れていた。多数の縄文遺物が発見され、1976年に県指定史跡になった。入口に使われている下層は、1969年に地元の中学生在がコウモリが出入りしていることから発見、掘削したもので、その際に通路、手すり、階段そして照明が整備された。2016～19年、山口大学洞穴研究会等により再測量などの学術調査がされている。

<周辺の宿泊施設、見所>

国道沿いの宝泉坊温泉にはロッジがあり宿泊できる。コロナ以降、付近の民宿は営業を辞めているよう。

さて、目の前を流れる川は黒瀬川、そう地質屋さんには有名な黒瀬川構造帯です。この付近一帯が2013年にジオパークに認定され、2022年、城川地質館なども統合された四国西予ジオミュージアムが開設された。

さらに、日本最大の中津川Tufaは必見、常識が破壊されます。また西予市は大野ヶ原の四国カルストが含まれ、羅漢穴も。是非、カルスト巡りをして下さい。

8.1. 安森洞 Yasumori-dou

横穴・全長 約 70m

<特 色>

動物化石の発掘で有名な“安森鍾乳洞”の下流、安森溪谷にある洞窟“タルブチ”を掘り広げた自然洞+人工洞が、このそうめん流し“安森洞”だ。洞窟の名称使用としては問題ありだが、この穴を開発したのが本来の“安森鍾乳洞”保存会の方々だ。ん～、仕方がないか。



で、このそうめん流し“安森洞” 雰囲気のある岩陰“タルブチ”と 洞窟の魅力は、洞窟としてより、穴から出てくる湧水を利用したそうめん流し。夏場だけの2ヶ月で1万人を越える家族連れが訪れているとか。洞口から吹き出る冷風と、冷水のそうめん、なかなか快適な不思議なケイビング体験です。

<所在地>

愛媛県北宇和郡鬼北町小松安森洞 Tel 0895-48-0830

<交 通>

JR予讃線近永駅から宇和島バスで野村営業所行き、小松橋下車、そこから山へ向かって約5kmの歩き。

車で行くしかない所、松山自動車道三間ICから県道52号で、鬼北町の中心近永へ。国道320号で城川方面、

小松で国道を外れ、御在所山に向かって北上。林道が舗装されただけのような道。しかし、国道からは「そうめん流し」の案内のぼりがこれでもかと言うくらい。残りの距離表示もあったりして、迷わずに行ける。

<管理者>

愛媛県北宇和郡鬼北町小松三島石油 Tel 0895-48-0136

そうめん流しの営業は夏の6月下旬から8月一杯。その間は所在地の電話だが、その間以外での問い合わせは三島石油へ。



そうめん流し“安森洞” パンプより

<概 要>

車を降りて、そうめん流しのロマン亭へ、さらに真っ直ぐ進むと安森溪谷。安森溪谷の右岸に“タルブチ”の岩陰が。マスの釣堀があって近くに行けないが、本来の“水穴”もいかにも穴の臭いがぷんぷん、大洞窟を期待させる雰囲気を持っている。

さて、そうめん流し“安森洞”の洞口にはヘルメットが置いてあり、穴には自由に入れる。セメントでフラットな洞床を水が流れ、洞壁はあちこちに削って拵げた跡が、ところどころにストローやノッチなどの自然があり、ホッとする。裸電球がいかにもワイルドだ。約70mのフェンスで入洞禁止に。この奥でそうめん流し用の取水がされている。



洞床を取水後の水が流れる

<探検の歴史>

1959年、-16mの縦穴“安森鍾乳洞”が発見され、本格的に発掘調査が行なわれた。「骨洞」と言うくらい多数の動物化石が発掘され、ジャコウジカも見つかったとか。

その際に協力したのが安森鍾乳洞保存会。“安森鍾乳洞”の観光化はあきらめたが、1971年から“タルブチ”の開発を始める。中断を挟み、1979年から再び。しかし、それらしい穴にはならず、現在の70m地点で断念した。そして1981年からそうめん流し“安森洞”としてオープン。鬼北町の活性化に大きく貢献している。測量などの調査がされていないのが、残念。

<周辺の宿泊施設、見所>

そうめん流し“安森洞”と同じ経営で、古民家(ふるさとの家安森)で農業体験ができる。

鬼北町には、成川溪谷休養センター、高月温泉などがあり、宿泊できる。

本来の“安森洞”とは約1km離れ、登山道も荒れていて、簡単には行けそうになかった。